



# 天見地域まちづくり協議会 静かなる船出

独自の

平成27年2月21日(土)、上岩瀬自治会館において、天見地域まちづくり協議会の設立総会が開催され、天見地域で活動する様々な団体の代表が集まった。

地域まちづくり協議会とは、住民が力を合せて地域課題の解決に取り組み組織。今、河内長野市内の小学校区で続々と設立が進んでおり、天見小学校区は、市内で11番目の設立のこぼ。

今回、初代会長に選任された原五郎さんが設立までの苦難の道を語った。

「天見では、私の前任で自治会連合会の会長を務めた中谷博明さんの時代から3年にわたって、自治会や団体が集まり検討を重ねてきました。中谷さんの情熱と粘りがあっての設立。後を引き継いだ私も、ほっとしています。」  
天見小学校区の清水・上岩瀬・下岩瀬・上天見・下天見・流谷の6つの自

治会をはじめ、福祉や青少年団体、関係機関、施設など全29団体から参画を得た。今後の取り組みが期待される。

## 何のための組織か？

設立総会では、冒頭に、この組織の基本となる会則が議論された。

これまでの検討から、また天見地域の実情もふまえ、地域の様々な課題の解決に向けて、次のような目的を掲げることが提案され、承認された。

- ① 構成団体の活動への支援
- ② 地元産物の生産や販売の促進
- ③ 地域のPRと来訪者の増加
- ④ 地域内外の人々との交流促進
- ⑤ 安全・安心な生活環境の維持

(総会資料より編集)





# “オール天見”体制

## 各地区から幅広く役員を選任

総会では、自治会連合会から役員候補が推薦され、全会一致で承認された。

- 会長 原 五郎（下天見）
- 副会長 西尾 猛（流谷）
- 副会長 中浦 吉康（上岩瀬）
- 副会長 門林 敏博（下岩瀬）
- 会計 尾尻 孝之（下天見）
- 会計監査 上野 善則（上天見）
- 会計監査 水口 貞典（清水）
- 理事 東 邦治（上岩瀬）
- 理事 川坂 雅信（上岩瀬）
- 理事 東 昇（上岩瀬）
- 理事 中林 孝蔵（下岩瀬）
- 理事 井実 信幸（上天見）
- 理事 東城 博行（流谷）
- 理事 寺田 章（清水）
- 理事 水谷 保次（清水）

### 今後の活動は

初年度は、3月末までの約一カ月となるため、主に次年度に備える取り組みが左記のとおり可決された。

- 住民の愛着心と来訪者の増加を目指して、天見の良さや地元産品をPRする「天見観光マップ」を作成する。
- 住民が楽しく交流でき、地域の原風景や歴史文化に触れる「ウォーキングイベント」の企画を検討する。
- 地域全体の安全・安心に向けて、団体や住民が連携して防災や防犯意識を高める防災訓練などを検討する。

### 市長も応援

総会終了後は、来賓として芝田市長から祝福と激励の挨拶があった。

市長は、南海地震が想定されている中で、地域の様々な団体が集まり、地域まちづくり協議会の活動を通じて、隣近所同士、老若男女の助け合いがさらに高まればと期待を寄せた。

さらに、1200年前、弘法大師空海は、高野街道が通るこの地を間違わずに訪れていたはずだと続け、清水の伝説など多くの縁（えにし）が残され



閑話休題

# 蟹井神社

蟹井神社は、天喜2年(1054年)の創建と伝えられ、神社の南に流れる天見川に「蟹井の淵」があり、社名の起源となったといわれています。

南北朝時代には、楠木正成の一族が戦勝を祈願したといわれていますが、延宝4年(1676年)の火災で社殿や史料を焼失してしまいました。

また、明治40年(1907年)には、天見の八幡神社、岩瀬の菅原神社が蟹井神社に合祀されています。

秋には、提灯を仕立て、島の谷、見坂、茶屋出から祇園囃子を唄いながら参詣する「提灯行列」があります。

その後、大きな釜で湯を沸かし、宮司さんが浄祓いと無病息災を祈り、煮えたぎった湯を笹の枝に浸して参詣者に注ぎ掛けるという「湯立神事」が行われています。



## ボランティアの募集

- ①レポーター（人の話に耳を傾ける人）
- ②カメラマン（一眼レフカメラで撮影する人）
- ③ディレクター（パソコンで編集できる人）
- ④デザイナー（イラストやマンガを描ける人）
- ⑤ライター（文章を校正できる人）

など

経験がなくても大丈夫。  
空いた時間で活動。  
団塊世代大歓迎！！

お問い合わせはメールで  
terumici0822@gmail.com



タイトル ブラックジャックによるしく  
著作権者名 佐藤秀峰  
サイト名 漫画 on web

ている天見は、市の観光にとって非常に重要な地域なので、積極的に魅力を発信してほしいと述べた。

また、天見のコミュニティスクール・学校運営協議会と共に、ふるさと学などを通じて、子どもたちを育て導いてほしいと訴えた。

最後には、地域に様々な課題がある中で、住民主体で優先順位を決めながら、市の地域サポーターと共に知恵を絞って、楽しく地域づくりを進めていきたいと思います。

## 参画を呼びかけ

原会長は、参加団体を通じて、住民全体に積極的な協力を呼びかけた。

まず、天見の地域マップづくりを進めるため、サイクリングコースや名所旧跡などを掲載した素案を提示し、広く意見を募った。

このマップは、天見地域の全家庭に配付されるだけでなく、天見駅や干早口駅などにも置けるよう南海電鉄と交渉すること。

最後に、住民の積極的な参加なしには、活動が展開できないと続け、ボランティアの募集を呼びかけた。

本誌「あまみの風」では、引き続き天見地域まちづくり協議会の活動をお知らせしていく予定。ご期待を。

# シリーズ 地名の由来

## 天見

幼いころ、天見の里は、周りが山に囲まれて空(天)しか見るところがないところだから、「天見」と言っのやと聞いたことがあります。

書物を調べると、「天見川の最上流域に位置し、古代の余部郷の転訛である」という説もある。」と記されています。

余部郷(あまるべこう)は、河内国錦部郡二郷の一つで、平安時代、現在の三日市町、加賀田、神力丘から天見、大井付近にかけての地域のこと。

また、南北朝時代には、「安満見」の地名が、楠木合戦注文に、「今年(正慶

2年)正月五日、於河内国甲斐荘安満見、至合戦」と記されています。

それ以降、江戸時代に入ると、「天見村」という村名が書物などにも現れるようになります。

私たちの住む天見は、高野街道が通る府県境のため、古代より交通の要所で、今も様々な史跡が残っています。

天見の地名の由来について、他に言い伝えなどをご存知の方は、ぜひお聞かせください。

尾尻孝之  
出典「角川日本地名大辞典2大阪府」より



天見駅前の桜(写真コンクール入選作品から)

# 大地の里 友邦 yuhou

## 上岩瀬の新たな拠点を訪ねて

上岩瀬にある農産物加工所「大地の里 友邦(ゆうほう)」は、河内材がふんだんに使われた建物です。

地元の食材を使い、上岩瀬のお母さんたちが、昔ながらの方法ですべて手作りしています。

お母さんたちの笑顔と、やさしい木の香りに癒される空間です。

お弁当は、「へっついさん」と呼ばれる「かまど」で炊いた、ふっくらつやつやご飯に、肉や魚などのメインのおかずと、地元の野菜や手作りの塩糍や味噌などを使ったお惣菜など数種類が入っています(週末限定)。2日前までに予約すれば確実に購入できます。

その他、手づくりのジャムや、お味噌、塩糍、佃煮などの加工品が販売されています。

中でも、地産の冬瓜(とうがん)を



使った「とうがんジャム」は、河内長野市のブランド品にも認定されました。高向の「奥河内くろまろの郷」では、このジャムを使った天然酵母パンも販売されているそうです。

- 高野線「千早口駅」下車すぐ
- 電話 0721・21・1049
- 時間 10時〜17時(冬季16時)
- 定休 月・火曜日

